（別添資料1）

支援プログラム

更新日 8 年 9 月 23 日

事業所名	児童デイサービス バンビ＜1単位＞

法人(事業所)理念	企業理念 人を癒す	事業所理念 三方よし ・・・ 利用者 事業所 従業者 がそれぞれ満足できる。 具体的な要素は、「正直」、「誠実」、「共感」 専門性 ・・・ 療育の追及。従業者は興味を持ち知識を得て実践することで、専門性を提供する 個別化 ・・・ 集団に適応するためには、「個」の基礎力を育てること。それぞれの違いを認め合い、支え合う
支援方針	アセスメントによって、P:できる E:芽生え F:要支援 の3種類に評価し、主に E:芽生え の分野に取り組み、P:できる へと導きます。お子さんを教材に合わせるのではなく、日常生活で課題となっている部分を抽出して、その課題に向けて個々の能力や特性に合わせてカスタマイズした「お子さんに合わせた教材」にて「できた！」を引き出します。また、職員と1対1で学び、自立課題に取り組むことで、「できない」と「できた」を繰り返し、「日常的にできる」へと繋げ、バンビだけではなく、家庭・学校・更には社会でも気付ける力を伸ばし自立へと取り組みます。TEACCHプログラムに基づいた支援を行っています。	
営業時間 （サービス提供時間）	営業時間 ＜1単位＞ 放課後等デイサービス 通常期 10:30 ～ 18:30 特別期 8:00 ～ 16:00	提供時間 ＜1単位＞ 放課後等デイサービス 通常期 15:00 ～ 18:00 （ 3時間以上は延長支援 ） 特別期 9:00 ～ 14:00 （ 5時間以上は延長支援 ）
送 迎	あり：シートベルトの着用などの交通ルールや安全に対する約束が守れることや送迎の提供時間内の受け渡しができることが条件	

領 域		＜低学年＞ 支 援 内 容	＜ 高学年以上＞
本人支援	健康 生活	それぞれの成長のスピードに合わせ、身の回りのことについての整理整頓や支度などは個別化した特性や苦手さに対応して育みます。児童発達支援で積み重ねた日常生活に必要な知識・技能がより定着できるよう援助量を減らしながら基本習慣を身に付けます。	生活の中での個々の課題を抽出して、1対1での学びのあと自立課題に取り組み定着を図ります。余暇スキル、職業生活スキル、居住生活スキル、相談する力など、将来を見据えた基本習慣を特性に合わせた環境の中で援助量を減らしながら身に付けます。
	運動 感覚	粗大・微細運動に取り組み、身体への認識、姿勢の保持を心がけます。特に不器用さ、力強さ、力加減などについて日常的に取り組みます。動作のモデルを見て模倣する力を養います。感覚の過敏や鈍麻への対応が自分で緩和できる方法を身に付けます。	より具体的かつ複合的な取り組みをリトミックや活動で経験を積み、特に動作モデルを模倣できる力や指示書を見て動作へと表現できる力を養います。また、手指の巧緻性に合わせて道具を用いて活用する練習を行い習得します。
	認知 行動	個別化して取り組みます。時計を意識して行動できる力や時間感覚を養い自立した行動へと繋げます。記憶・ワーキングメモリーへの配慮、見え方・捉え方の特性へアプローチしながら、お子さんに合う方法で学習の基礎部分の定着を図ります。	学習のサポートとして、どの段階でつまづきがあるのかを特性を踏まえて見定め基礎部分の習得を優先に行います。「禁止や待つ」の指示、「変更や修正」に従える、客観的な情報を参照する、他者の考え方を参考にできる等の力を育み将来へと繋げます。
	言語 コミュニケーション	話すことができても会話のやり取りを理解できているか？また、状況や自分の気持ちによっても適切に表出(要求・ヘルプ)できるのか？など言語へのサポートも行います。また行動観察を行い、お子さんのコミュニケーションの特性に合わせて配慮します。	代替コミュニケーションへの取り組みや、語彙の少なさからの不適切な表出、捉え方の歪みや一方的な会話など、社会性と絡んだ苦手さを受け止め、適切な表出方法や気づき(リマインダー)など、視覚的ツールを活用しながら促します。
	人間関係 社会性	接近、並行、共有、協力、順番交代の社会性の育ちに加え、ジョイントアテンション、セオリーオブマインドなどの特性に合わせて、グループ活動の中で段階的な気づきの設定を行い取り組みます。	個々の社会性の育ちへアプローチします。学校での出来事等を「相談できる保護者様以外の大人」の役割で、振り返りや思いを受け止め現状を把握したり相互交渉の力を身に付けます。事前予告や約束を確認し友達とのトラブルの回避や成功の経験を積み重ねます。
主な行事 等		長期休暇には、道具を共有して工作に取り組むなど社会性の視点を盛り込み取り組んだり、夏祭りやハロウィン、クリスマス会などのイベント参加。また、憧れの警察官や消防署員との触れ合いやセラピー犬も遊びに来ます！	社会生活への取り組みとして、バスや電車に乗る練習、喫茶店体験、城下町での買い物体験等を経験します。警察や消防署、防災センターとの関わりで、緊急時や防犯意識、交通ルールへの意識づけを行っています。

家族支援	個々のご家庭で状況や環境も違うため、ご家庭での課題をお聞きして、まずはバンビでその課題に取り組みスキルを身に付けご家庭へと繋げます。また、きょうだいとの関係性や状況をお聞きして、サポートできる部分を検討します。 11月には保護者交流会を開催しています。	移行支援	地域の教育等の支援を受けることができるよう移行推進に努め、また、ライフステージの切り替えを見据えた取り組み、事業所外での生活や育ちの場に向けた取り組みを行っています。
職員の質の向上	月に1回、外部講師によるTEACCHアプローチや応用行動分析の研修によって「職員の質の向上」に8年間取り組み今後も継続していきます。研修を行うだけでなくその課題を実践し、お子さんの成長を促すとともに職員の成功体験を積みスキルアップを図っています。	地域支援 地域連携	事業所の連携や交流のために、スポーツ交流会やミュージックフェスティバルへの参加や、同法人の高齢者のデイサービスとの交流も行っています。また、自立支援協議会、子ども部会へも参加しています。

（別添資料1）

支援プログラム

更新日 8 年 9 月 23 日

事業所名	児童デイサービス バンビ<2単位>

法人(事業所)理念	企業理念 人を癒す	事業所理念 三方よし ・・・ 利用者 事業所 従業者 がそれぞれ満足できる。 具体的な要素は、「正直」、「誠実」、「共感」 専門性 ・・・ 療育の追及。従業者は興味を持ち知識を得て実践することで、専門性を提供する 個別化 ・・・ 集団に適応するためには、「個」の基礎力を育てること。それぞれの違いを認め合い、支え合う
支援方針	アセスメントによって、P:できる E:芽生え F:要支援 の3種類に評価し、主に E:芽生え の分野に取り組み、P:できる へと導きます。お子さんを教材に合わせるのではなく、日常生活で課題となっている部分を抽出して、その課題に向けて個々の能力や特性に合わせてカスタマイズした「お子さんに合わせた教材」にて「できた！」を引き出します。また、職員と1対1で学び、自立課題に取り組むことで、「できない」と「できた」を繰り返し、「日常的にできる」へと繋げ、バンビだけではなく、家庭・学校・更には社会でも気付く力を伸ばし、自立へと取り組みます。TEACCHプログラムに基づいた支援を行っています。	
営業時間 （サービス提供時間）	営業時間	<2単位> 児童発達支援・放課後等デイサービス 通常期 10:00 ～ 18:00 特別期 9:00 ～ 17:00
	提供時間	<2単位> 児童発達支援・放課後等デイサービス 通常期 11:00 ～ 17:00 （ 延長支援を含む ） 特別期 10:00 ～ 16:00 （ 延長支援を含む ）
送 迎	あり：シートベルトの着用などの交通ルールや安全に対する約束が守れることや送迎の提供時間内の受け渡しができることが条件	

領 域		＜児童発達支援＞ 支 援 内 容	＜放課後等デイサービス＞
本人支援	健康生活	身辺自立など、自分の身の回りのことについて、それぞれの成長のスピードが違うため、個別化してタイミングを見計らい育みます。日常生活に必要な知識・技能を身に付けるために1対1で伝え、援助量を減らしながら基本習慣を身に付けます。	それぞれの成長や特性に合わせ、身の回りの整理整頓や支度などに構造化・再構造化を繰り返し取り組み育みます。児童発達支援で積み重ねた日常生活に必要な知識・技能がより定着できるよう援助量を減らしながら基本習慣を身に付けます。
	運動感覚	粗大・微細運動に取り組み、身体への認識を育みます。特に不器用さ、力強さ、力加減などについて日常的に取り組みます。動作のモデルを見て模倣する力を養います。感覚過敏や鈍麻を、保護者様からの聞き取りや行動観察により受け止め配慮します。	道具の使い方のコツや動作の苦手さを抽出して遊びの要素に加えて経験を積みます。特に不器用さ、力強さ、力加減などについて言葉で伝わる場合にはジェスチャーと同時に伝え理解を促します。感覚の過敏や鈍麻への対応が自分で緩和できる方法を身に付けます。
	認知行動	個別化して取り組みます。時間（スケジュール）や空間（エリア）への理解への基礎作り、記憶・ワーキングメモリーへの配慮、見え方・捉え方の特性へアプローチしながら、お子さんに合う方法で経験を積みます。	個別化して取り組みます。時計を意識して行動できる力や時間感覚を養い自立した行動へと繋げます。記憶・ワーキングメモリーへの配慮、見え方・捉え方の特性へアプローチしながら、お子さんに合う方法で学習の基礎部分の定着を図ります。
	言語 コミュニケーション	話すことができても会話のやり取りを理解できているか？また、状況や自分の気持ちによっても適切に表出（要求・ヘルプ）できるのか？などの行動観察を行い、お子さんのコミュニケーションの特性に合わせて配慮します。	話すことができても肝心な場面で表出できているのか？また、状況や自分の気持ちによっても適切に表出（要求・ヘルプ）できるのか？などの行動観察や学校との情報共有を行い、お子さんのコミュニケーションの特性に合わせて配慮し育みます。
	人間関係 社会性	接近、並行、共有、協力、順番交代の社会性の育ちに加え、ジョイントアテンション、セオリーオブマインドなどの特性に合わせて、2人から始め、3人4人・・・と設定し段階的に取り組み、拘りや不安を緩和していきます。	接近、並行、共有、協力、順番交代の社会性の育ちに加え、グループ活動の中で境界の理解やセオリーオブマインドがなされるように構造化や自立課題、ロールプレイなどによって自己認知、他者理解を促します。
主な行事 等		季節行事に因んだ工作に療育の視点を盛り込み毎月実施しています。長期休暇には、夏祭りやハロウィン、クリスマス会などのイベント参加。また、憧れの警察官や消防署員との触れ合いやセラピー犬も遊びに来ます！	長期休暇には、道具を共有して工作に取り組むなど社会性の視点を盛り込み取り組んだり、夏祭りやハロウィン、クリスマス会などのイベント参加。また、憧れの警察官や消防署員との触れ合いやセラピー犬も遊びに来ます！

家族支援	個々のご家庭で状況や環境も違うため、ご家庭での課題をお聞きして、まずはバンビでその課題に取り組みスキルを身に付けご家庭へと繋げます。また、きょうだいとの関係性や状況をお聞きして、サポートできる部分を検討します。 11月には保護者交流会を開催して特性の理解や療育方法をご紹介しています。	移行支援	地域の保育、教育等の支援を受けることができるよう移行推進に努め、また、ライフステージの切り替えを見据えた取り組み、事業所外での生活や育ちの場に向けた取り組みを行っています。
職員の質の向上	月に1回、外部講師によるTEACCHアプローチや応用行動分析の研修によって「職員の質の向上」に8年間取り組み今後も継続していきます。研修を行うだけでなくその課題を実践し、お子さんの成長を促すとともに職員の成功体験を積みスキルアップを図っています。	地域支援 地域連携	事業所の連携や交流のために、スポーツ交流会やミュージックフェスティバルへの参加（放デイ）や、同法人の高齢者のデイサービスとの交流（放デイ、児発）も行っています。また、自立支援協議会、子ども部会へも参加しています。